

Monatsmagazin Japanisch

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙

創刊平成元年 創刊30年目 **Nr. 349**

月刊ウィーン

GEKKAN-WIEN 2018年10月号



Pieter Bruegel d. Ä. (um 1525/30 vermutlich in Breugel oder Antwerpen - 1569 Brüssel)

Turmbau zu Babel 1563, Öl auf Holz, 114 x 155 cm Kunsthistorisches Museum Wien, Gemäldegalerie © KHM-Museumsverband

ピーテル・ブリューゲル 「バベルの塔」 1563年 板に油彩 ウィーン美術史博物館所蔵

10月2日からウィーン美術史博物館『ブリューゲル』展にて展示



杉本純の原子力の話II ウィーンと京都 82

世界原子力協会(WNA)は八月十六日、「世界の原子力発電成果報告二〇一八」を公表し、昨年の世界の発電量と建設の成果およびWNAが目指す目標達成についてその方向性を示した。二〇一七年末時点での世界の原子力発電量は、過去五年にわたり増加を続け、年間一兆五〇六〇億キロワット時を記録したとしている。また、世界で運転中の原子炉は四四八基で発電規模は三・九二億キロワットに達し、二〇一六年末に比べて二百万キロワット増加。新規炉四基が送電を開始し、建設中は五九基。五基が閉鎖されたが、そのうち二基は長期にわたり停止中の原子炉であった(なお、我が国では本年八月の時点で九基が再稼働中、五基が設置変更許可を得て、一三基が新規規制基準の審査中である)。

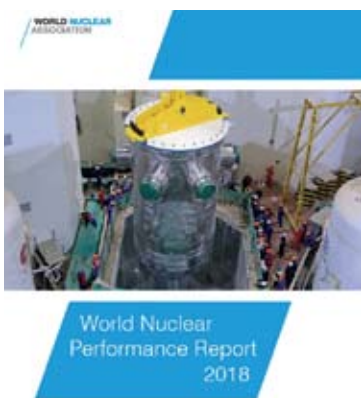
WNAのリーディング事務局長は、報告書のまとめで次のように指摘している。(一)原子力なしで持続可能なエネルギーの未来は考えられない。全ての低炭素エネルギーとの共存が必要。二〇五〇年までに世界の電力需要の二五%を原子力が担うという産業界が目指す目標を達成するためにも設備利用率の高度化が必要。(二)目標達成には、二〇五〇年までに十億キロワットの設備容量が必要。

そのためには、二〇一六から二〇年の間に毎年千万キロワットの設備開発が経過目標。二〇一八年と二〇一九年には、二千六百万キロワット以上が新規に運転開始予定。(三)次の十年間での目標達成のペースを保つためには、さらに毎年平均三千三百万キロワット増に加速することが必要。

報告書の末尾では、現在、原子力は立地地域に対しても恩恵をもたらさし、国の経済を支援し、世界で高まるグリーンで信頼できる電力需要に込んでいる。WNAは目標達成プログラムを通じて、原子力発電が持続可能なエネルギーの未来に完全に貢献できるようにするために必要なステップを示している、と締めくくっている。

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市のデパートについて述べてみたい。ウィーンで最も賑やかなケルトンナー通りにあるシュテッフルは、地上八階、地下一階、売場面積一万三千平方メートルを有し、一日約三万人の客が訪れるウィーンの中規模デパートである。名前はウィーンの中規模デパートである近くのシユテファン寺院にちなむ。一八九六年にノイマン・デパートとして創業したが、その後オーナーが度々代わり、九〇年代に大規模改修が行われ、二〇〇七年にオーナーとなったハンス・シュミットにより、その後も改修が継続されている。最上階には「スカイバー」と呼ばれるバー・レストランがあり、市内を展望しながら飲食を楽しめる。その他、マリアヒルファー通りには、一八七九年創業、地上六階、地下一階、売り場面積約三万平方メートルの大規模デパート、ゲルングロスがある。

一方、京都四条烏丸にある大丸は、一七二七年に伏見で開業した呉服店「大文字屋」を創業とし、現在は売場面積約五万平方メートルを有する京都最大規模のデパートである。経営理念は創業時の「先義後利」、義を先にして利を後にする者は榮える、の意。毎年冬になると施餓鬼(せがき)として貧しい人に食べもの、古着やお金を施し、人の集まる寺社に大丸マークつきの灯笼や、手ぬぐいを大量に寄付するなどボランティア活動で利益を社会還元していた。四条河原町にある高島屋は、一八三一年に烏丸松原で古着・木綿商「たかしまや」を創業したのに遡る。売り場面積は約四万二千平方メートルに遡る。売り場面積は約四万二千平方メートルに比べて高級感がある。他にもデパートはいくつもあるが、京都人が「大丸さん」と「さん」付けて呼ぶのは大丸だけ。両市のデパートは市民ばかりでなく、観光客も惹き付けているのが共通している。



https://www.jaif.or.jp/180821-a

余談であるが、著者はウィーンのパートにはあまり行かなかったが、家内は良く訪れていた。京都のデパートは、学生時代はほとんど縁がなかった。教授時代は大丸も高島屋も役員になったが、家から歩いて十五分で行ける高島屋のラウンジで無料ドリンクをよく利用した。両市のデパートを紹介できた幸運に感謝しつつ、シュテッフルの写真を掲載させていただく。



■ 杉本純 元京都大学教授
元原子力機構ウィーン事務所長

杉本純の原子力の話II 「ウィーンと京都」の第1回からの全記事が次のサイトに掲載されています：<http://wattandedison.com/Sugimoto.html>



子供のための街づくりを考える第9回チャイルド・イン・ザ・シティ国際会議がウィーン市庁舎で開催された。日本からは木下勇さん(千葉大学)、内田塔子さん(東洋大学)、佐久間治さん(九州工業大学)がパラレルセッションで発言し、卯月盛夫さん他(早稲田大学)がポスターの展示を行った。

